

## 【砺波税務署長賞】

「今、起きていること」

富山県立南砺福野高等学校一年 岩崎 美颯乃

私は毎月、月初めの日に母からお小遣いをもらっています。ですが遊びに行ったり電車に乗ったりするとすぐにお金は無くなってしまいます。祖母はそれを知ると求めていなくてもお金を渡してくれます。私は母から度々「年金は二人合わせてギリギリ生活できる程だ。」と聞いているので渡されることに毎回、罪悪感を感じています。

最近、どこのメディアでも専門家や政治家の方が「あと数年すると年金はもっと少なくなる。」と言います。実際に少子高齢化が進んでいる事実があります。若者が税金を多く納め、もう働けない高齢者が知識などを伝承したりする役割を担うことが現状だと思います。

あと数年経つと現在、高齢の方が亡くなるので年金が増えると言われていますが、私は待てません。何故なら父と母の問題は解決されないからです。私の家は現在、母しか働き手がいけません。父は私が小学校に入学した頃に会社を辞め自営業になった後、小学校5年で入院しました。体調がよくないにも関わらずお金がもったいないという理由で病院に行かなかったのが病気にかかり手術することになったのです。父は手術の前に「いってきます。」という言葉を伝えた後、喋れなくなりました。障がいの具合によって補助金がもらえたりするのですが、私の父は絶妙な障がいなのであまりお金はもらえません。もともと自営業なので収入が安定しているとは言えませんでした。恐らくもらえる年金は少なくなるのではないのでしょうか。高校を卒業すると働いたりはできますが仕送りする未来は考えられません。現在2人合わせてギリギリ生活できる程と聞きますが、今よりも少ない年金で父と母は生活できるのでしょうか。今から心配しても仕方がないのですが、これからの生活を支えていくのも現在の生活を支えていくのも税金だと思います。納税は国民の義務ですが納められない場合があります。これからも私の父を含め働けず納税できない人でも高齢まで安心して暮らしていくには税金の制度や今を生活している若者が頑張る必要があります。

日本がこれからどうなるかは分かりませんが、これからも生きていくために今から少しずつでも未来につながる行動をしていこうと思います。私は日本の税というシステムを支え、支えられ高齢になっても安心して暮らせる未来を想像するところから始めてみようと思います。